

2015年3月4日

## コーポレートガバナンス・コードに関する経営陣の考え

### ～上場企業経営陣へのアンケート結果～

IR・コーポレートガバナンスのコンサルティング会社ジェイ・ユーラス・アイアール(株)(東京千代田、代表岩田宜子)では、来る3月5日に開催される最後の有識者会議を経てまもなく最終版が発表されることになるコーポレートガバナンス・コード(以下、ガバナンス・コード)に関して、上場企業経営陣を対象にアンケートを実施し、54社から回答を得た。

9割を超える経営陣が、ガバナンス・コードについて、「知っている」としており、高い関心が持たれていた。コード対応については、2割弱の経営陣が「日本の実態に合わない」としているものの、「日本のガバナンス改革のよいきっかけとなる」および「違和感がない」というポジティブな意見が、両者併せて、半数以上となり、今回のガバナンス改革を肯定的に受け止めていることが判った。

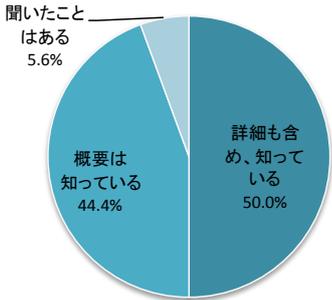
さらに、当コードでは、Comply or Explain 方式(遵守するかしないか、遵守しない場合にはその説明をするというやり方)が採用されるが、「遵守しないと決定した場合」の準備をしているかどうかの質問については、36%が、「特段の準備が必要ということではない」とし、当コードに対して、冷静に対応している状況がうかがえる。また、当コードの管轄を、「会長・社長・CEO」とすべきとした回答が40%あり、事務的な負担が増すことを懸念する声が大いの中、経営陣の前向きになっている姿を確認できた。

詳細は、以下の通り。

**アンケート結果** 回答数・・・54社

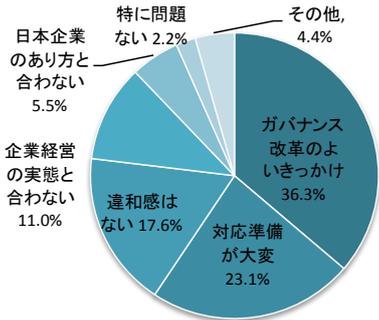
**1.ガバナンス・コードの発表について知っていたか**

コードの内容の詳細も含め、知っている	50.0%
コードの概要は知っている	44.4%
コードについて聞いたことはある	5.6%



**2.ガバナンス・コードについての感想(複数回答可)**

日本企業のガバナンス改革のよいきっかけになる	36.3%
コードへの対応準備が大変である	23.1%
自身の問題意識と同じであり、違和感はない	17.6%
資本市場の意向を反映しており、企業経営の実態と合わない	11.0%
日本企業のガバナンスのあり方と合わない	5.5%
コードへの対応はすでに準備ができていますので、特に問題ない	2.2%
その他	4.4%

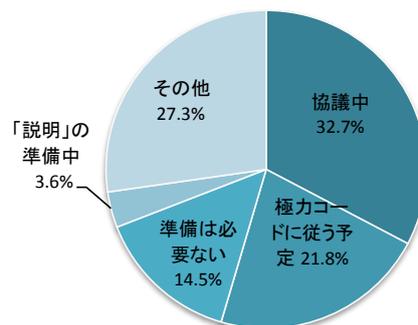


**【その他の記載】**

お飾りでなく経営に資する社外取締役の人選に悩む。  
 コードへの対応準備を検討している。  
 補充原則対応レベルの要求度によって難易度が変わる。実際の運用を注視する必要がある。  
 より実質的なガバナンスのあり方を考える良いきっかけになる。

**3コードを順守しない場合の理由説明準備について(複数回答有)**

社内のスタッフや弁護士を交えて協議をしている	32.7%
極力コードに従う予定なので、特段の準備は必要ない	21.8%
すでにほぼクリアしているので、特段の準備は必要ない	14.5%
社内のスタッフや弁護士を交えて「説明」の準備をしている	3.6%
その他	27.3%

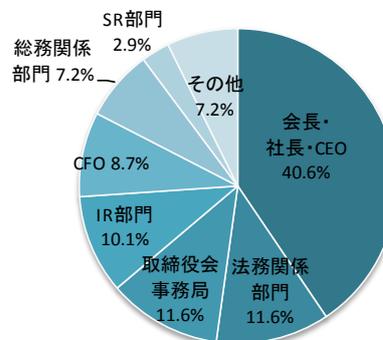


**【その他の記載】**

多くはクリアしており、まだしていない部分についても説明可能、あるいは今後対応していく予定。  
 極力コードに従う予定だが、すぐに対応できないものについては、社内スタッフを中心に協議を始めている。  
 形式面だけでなく、どこまで実質的に対応できているかを見直している最中。  
 経営トップ及びスタッフで対応を検討中。  
 取締役会評価の方法について検討を深めたいと考えている。  
 方針を取締役会等で検討してもらうため準備中。  
 コードへの対応準備を検討している。  
 先ず役員向け「当コード」勉強会を開催してから社外スタッフや弁護士等を交えて準備していきたい考え。  
 情報収集の段階。  
 まだ準備ができていない。社内の認識が甘い。  
 準備できていない。  
 これから検討する。  
 対応を検討中。  
 まだこれからになると思う。

**4.当コードへの対応は、社内で誰が中心となるべきか(複数回答有)**

会長・社長・CEO	40.6%
法務関係部門	11.6%
取締役会事務局	11.6%
IR部門	10.1%
CFO	8.7%
総務関係部門	7.2%
SR部門	2.9%
その他	7.2%



ウェイトが高いのは「会長、社長、CEO」(会長・社長・CEO、法務関係部門、取締役会事務局 の3つを選択)  
 自分が実務を担う。(会長・社長・CEOを選択。ご回答者は取締役常務執行役員)  
 コーポレートガバナンス対応部署、中心は経営企画部  
 社長が中心となり、経営企画部門、総務人事部門、IR部門などが連携して対応する  
 社長をヘッドとしたプレジデントチーム対応が理想。実務部隊に弊社グループにおいてはIR部門に担当  
 経営管理部  
 経営企画室  
 経営戦略

(アンケートにご協力いただいた企業の状況:時価総額 1兆円以上の5社を含む 5000億円以上 24%、時価総額 5000億円未満 1000億円以上 35%、時価総額 1000億円未満 41%)

当担当連絡先: 岩田・宮地 03-6273-4032、携帯:090-6021-1230

.....  
**ジェイ・ユーラス・アイアール株式会社**

日本企業のニーズを満たし、しかも世界レベルのIR活動を日本企業に提案・推進する日系初のグローバルIR・ガバナンスのコンサルティング会社。  
 東京のほか、ロンドン、ニューヨークに拠点を置く。日本企業への提案力に関しては多くの実績があり、IRに関する経営陣へのコンサルティングでは、時価総額1兆円以上企業をはじめ、新興企業も含めた幅広い顧客を得ている。 <http://www.j-eurusir.com> 電話: 03-6273-4032

.....